



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 360

Juli 2021

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

ご 報 告

会長 柘田 義一

ウイルス感染拡大のため印刷室の閉鎖などの理由から一時発行を中断していた「会報」を再発行して一年が経過しました。コロナ禍での諸制約下での協会と会員そして会員間の唯一の絆として隔月発行を改めて毎月発行をしてきました。この間に会報へご寄稿くださいました方々に改めてお礼を申し上げます。

急速に進んでいるワクチン接種の効果か、7月に入り兵庫県では感染が下止まりをしています。未だ油断は許されませんが、感染防止に十分に配慮した上での新たな社会活動が動きつつあるようです。協会では、6月号にてお知らせしましたが、昨年度のコロナ禍による協会活動の停滞への反省を踏まえて、新年度はコロナ禍におけるそしてコロナ禍後での協会運営・活動のこれまでとは異なる新しい展開に対処すべく、理事会にて各種活動チーム(委員会改め)を立ち上げ、現在リーダー(*印)となる理事を中心にその活動内容・方法について検討を重ねています。

Nr.	テーマ課題	担当理事(順不同敬称略)
第1チーム	財務・組織	赤松、平塚、*松田
第2チーム	ドイツ語講座	S. Trummer-Fukada、杉谷
第3チーム	交流・促進	*押尾、大西、次郎丸、島多
	GJG	林、*大西
第4チーム	広報	林、S. Trummer-Fukada、*平塚

会員の皆様にご参加をいただきたく、各チームの活動方針の骨格が決まり次第、会報あるいはホームページ等でお知らせいたします。会員皆様のご協力をお願いいたします。

本年は日独交流160周年の年です。150周年の際には神戸における日独交流の歴史を回顧しました。この10年間で日本でもドイツでも環境保護意識の高まり、IT技術の急速な発達等による産業構造及び生活意識の変革が生じました。160周年ではコロナ禍後の日独交流のためにも「新しい神戸」を発信します。記念事業の企画が固まり次第改めてご報告を致します。

ドイツ語講座・ドイツ文化教室2021年度第Ⅱ期開講

7月5日(月)よりドイツ語講座・ドイツ文化教室の2021年度第Ⅱ期が開講しています。
兵庫県下での感染状況も下降を示しワクチン接種も急速に進んでいますので、7月からの第Ⅱ期は本来の対面授業にて行います。これまでと同様にマスク或いはフェイスシールド等の着用をはじめ授業でのウイルス感染防止に努めていきます。神戸市内での感染状況が再び悪化した場合にはオンライン授業に移行をしますので、予めご了承をお願いいたします。

各国ではワクチン接種が進み国際的な交流も徐々に復活しつつある報道も見られるようになってきました。しかし諸制限のない海外交流にはまだ時間を要し、疎遠となったドイツとの交流も今しばらくはままならないでしょう。ドイツとの交流復活時のために、この機をドイツ語のブラッシュアップや学び直しの好機ととらえて、ドイツ語講座に参加しませんか。

ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。各クラスの内容については、事務局へお問い合わせください。
梅雨明けも間近でしょう。今年も暑い夏が予想されます。駅からも近く涼しい教室で今年の夏は「ドイツ語体験」を試してみませんか。

ドイツ語講座特別講座「ドイツ語をより身近に、より深く」

コロナ禍での新年度行事の第一弾として4月17日より毎週土曜日午前に開講してきました特別講座(全9回)は6月19日に終了しました。

この特別講座は、ホームステイを余儀なくされているコロナ禍での ZOOM によるドイツ語講座として開講しました。近頃のコミュニケーションに重きを置いた外国語教育にとって大事でありながら、大学をはじめ通常の授業では欠落がちなコミュニケーションでの「ドイツ語の音」に関する事、「音としてのドイツ語の理解」の仕方、ドイツ語の背景にある言語学的特徴および社会文化的な出来事などについての講義が行われました。

この講座の趣旨が十分にお伝えできなかったのか会員の、特にドイツ語講座受講者の受講が少なかったのは残念でしたが、ドイツ語学習の入門・初級者から中級者までの非会員を含めた幅広い方々に受講をしていただき、ありがとうございました。

年度初めのご多忙な時期にもかかわらず、ボランティアとして講義をしてくださいました先生方にはお礼を申し上げます。

コロナ禍でのオンラインを活用した新講座を協会では提供をしたいと思っておりますので、ご希望・ご提案をお寄せください。

これまでの講座の感想をいただきましたので、前号に引き続きご紹介します。

ドイツ語特別講座受講感想

ドイツ語特別講座－林 良子先生－を受講して

会員 岸田 貴子(G1クラス)

昨年秋からドイツ語の日常会話を始め、より基本のドイツ語を知りたくG1クラスの「ドイツ語の基礎入門コース」で学んでいる。その中で、母音(長音、短音)、子音の決まり事があることを学んだ。しかし、学習の中でも、まずは単語の読みを必死に頭で文字化し、次に語尾変化は??と、文法中心に学習に取り組んでいる毎日だ。発音の取り組みは最後の取り組みとなっており、気をつける順位としては最後となっている。

今回、林先生の特別講座「ドイツ語発音のコツ～ドイツ語の母音、子音、リズムに親しもう(1)(2)」では、日本語と比較しながら、ドイツ語の文節的特徴(母音、子音など)、超分節的特徴(アクセント、イントネーション、リズム)についてお話いただいた。

母音は、口の開き、舌の位置、唇の突出しの3つの条件で音色が変わる。講義では、母音四角形図、MRI動画によるドイツ語母音の舌の位置や動きもみせていただいた。日本語にはない変母音ÖやÜは難しく、自分にあった方法を見つける事を勧められた。Öは「吐くときの口の形」、「みぞおちを殴られてウツとなった時の唇」など先生独自のユニークな表現をされ、会場内は大爆笑となった。その他、“R”はのどびこを何度も震わせなくてもよいことや、語頭は、声門閉鎖音が伴うため区切って発音するようにと、“nach”は前の母音の口のままでのどから息を出すなど。以前、柘田先生のクラスの中で、「Nachmittag」を発音した時、「君は、現地で苦労するよ。」と一刀両断されたことを、今でも覚えている。その頃、テキストにはchの文字があれば、「ハ」「ヒ」「フ」と書いており、発音記号[x] [ç]も、どのように発音して良いかが理解出来ず眺めるだけで放置していた。しかし、今回の講義の中で、ドイツ語を無理やり日本語に当てはめようとしていたことに気づいた。

2回目の講義では、さらに、ドイツ語の歴史的変遷や地域的差異にも触れ、発音の地域差を知るのもドイツ語の醍醐味と語っておられた。

日本語では、同じ「はし」でも箸、橋、端のように高低アクセントの区別があるが、ドイツ語でもアクセントが違えば、単語の区切りが分からなくなり、通じなくなるそうだ。アクセントはとても大切で、音節に分け母音(母音しかアクセントを受けないため)を大切に長く発音する。恥ずかしがらずに、かなり派手目にやるのがコツだそうだ。イントネーションは、6種類のトーンがある事や、日本語では、しりきれとんぼのように文末に向かって声が小さくなる口調が多いが、ドイツ語は文末に大切な情報があり、最後まできちんと発音することが重要などと話された。

今回の講義では、資料に加え、クイズ、早口言葉、ドイツ語の朗読、文アクセントなど自己学習用や、更にパラレルリーディング(意味を考えずに音声と同時に読み上げる)などお勧めの学習方法も伝授していただいた。

90分という短い時間で、ハイデベルクの背景を使い、キール大学で怖かったコーラン先生や昔の柘田先生など余談、失敗談も交えてお話され今まで知らなかった奥深いドイツ語の世界に浸ることが出来た。いつか教えて頂いたことが活用できる日を夢みて、ドイツ語の学習に頑張りたいと思う。

全回受講感想

「ドイツ語講座特別講座“ドイツ語をより身近に、より深く”を受講して」

会員 吉川 充子(K5クラス)

この度、Trummer 先生、柘田先生、杉谷先生、林先生の合計9回の特別講座を受講しました。土曜日の午前中に自宅で気軽にオンラインでドイツ語の Native の先生や大学で教えられている諸先生方の専門的な講義を受ける機会を与えていただいたことにとっても感謝しています。どの先生方のお話も、私にとっては“目から鱗”の連続でとても有意義な時間でした。各先生のお話で私が特に印象深く思った内容の一部を紹介します。

Trummer 先生：すべての文体は、1.不定詞句文、2.人称変化文、3.ピリオド文、4.疑問文の4つに分類できる。文章を読む時解らない単語が出てきたら、その都度辞書で調べるのは一番良くない勉強方法で、まず文章全体を見て、接続詞等から上記のどのタイプの文体になるか考えてから初めて解らない単語を調べるのが望ましい。今まで私は、解らない単語を見たらすぐに辞書で調べていましたが、この機会に改め、まず文全体を見てどのタイプの文体なのか考えるように心がけます。また、ドイツ語の話をする時は、文章の区切りを探し、区切りの前後に集中して聞く練習をするのが良いそうです。それも内容の知らない話で練習すればより効果があるそうです。私達も授業の特別ゲストであるメルケルさんの Impfen(コロナの予防接種)のスピーチを聞いて練習しました。ドイツ語では、英語からの影響で大事な事はピリオドの前に言う傾向があることも Jane Austen の小説“Pride and Prejudice (高慢と偏見)”の中の文を通して学びました。

柘田先生：ドイツ語の格の話は、言語的な歴史背景や英語との比較で考えればとても理解しやすいと思いました。かつてドイツ語はもっと格の種類が多かったが、格融合が起こり4つになったとのこと、今は昔の人達より簡素化したドイツ語を学んでいると思うと、ややこしいドイツ語の格変化も今までと違った目で見られます。その結果、英語では SVO の語順に移行したが、ドイツ語はゲルマン語本来の語順 SOV が従属文などに残った。人称構文では英語は人の主語構文になり、ドイツ語は物の主語構文が残っている。私達がまず習う英語と比較されての説明でよく理解できました。自動詞と他動詞の区別についても今まで辞書で調べた時に見過ごしていましたがこれからは必ず確認しようと思います。“移動の結果”を表す Sein について Trummer 先生の授業の例文を再度学びました。私にとって考えも及ばなかった表現方法なので紹介します。

移動の結果を表す Sein: Ich bin hier.

Ich bin nach Deutschland gefahren. Ich habe Deutsch gelernt.

Absentiv: Ich **war** in Deutschland Deutsch **lernen**.

Absentiv の例：①Ich bin einkaufen. 買い物に出かけている。

②Ich bin (eine) Milch kaufen. 牛乳を買いに行っている。

③Er ist essen. 彼は食事に行っている。

Absentiv を後日調べたところ、「不在構文」と訳されていました。上記①②③とも、文末の gegangen が省略されていると思えば理解できます。このような使い方ができるのだと知ったこと

は、私にとって大きな収穫でした。

杉谷先生： 私は、先生の講義の K5クラスを受講しています。「ランデスクンデ」の重要性を再認識しました。ドイツでは外国語を学ぶ場合、その言語の実用的機能以外に教養的機能の習得も重要視されているということです。実用的機能とは、当該言語の話される社会文化圏の主要な知識（歴史を含む）のことであり、教養的機能とは、主要な社会文化・歴史的事実に基づいた相手国の理解を通じ自文化と関連付け両文化を批判的に考察する力の育成のことであります。ある外国語を学ぶ際に、言葉そのものだけでなく、その国の歴史や社会的・文化的背景を知り自国と比較する力を養うのはとても重要なことです。ドイツと周辺国の戦後の歩みやドイツの戦後の青少年に対する教育の仕方を知れば知るほど、日本の現実の不十分さについて考えさせられます。講義ではナチス体制下のほぼ同年代の二人の女性について学びました。ドイツ語を学ぶことにより、戦争時の女性二人の生き方やその時代について考える機会を得ました。私達日本人も近隣国のアジアを初め世界各国の人々とコミュニケーションを取るうえで、過去から現在に至る自国史について学ばなければならないと痛感しました。戦後40周年の演説で Weizsäcker も言っています。「過去に対して目を閉ざす者は、未来に対しても盲目になる」

林先生： ドイツ語の音に関する授業はとても新鮮でした。昔の大学の授業と異なり、インターネット上の映像や発音がふんだんに取り入れられた授業はとても興味深かったです。音声言語として母音や子音といった文節音の発音の習得は6歳くらいで完全になるそうです。その為大人になってからの外国語の習得は、母語(日本語)の干渉が起こること。外国語の発音が難しいのは当然のことと思うと気が楽です。日本語と発音の領域の近い外国語が学びやすいという理論も理解できました。ウムラウトの音の説明で、Ö の発音は気分が悪くて吐く時の音の「オエー」というのが近いとのこと、とても解りやすく記憶に残るお話でした。ドイツ語の文節音の低地、高地、中部、上部の地域差異、話し言葉の南北ドイツの差など、興味の引く内容が付きません。アクセント、イントネーション等も標準日本語及び日本の方言と比較しての説明でとても解りやすかったです。“聞き取りの練習問題”も取り入れられ、緊張の瞬間もある講義でした。初めて聞いたドイツ語の早口言葉も発音練習にはとても有益です。一つだけですが、紹介します。

Klaus Knopf liebt Knödel, Klöße, Klöße. Knödel, Klöße, Klöße liebt Klaus Knopf.
(クラウス・クノッフはクネーデル、団子、ミートボールが大好きだ。クネーデル、団子、ミートボールが大好きなのはクラウス・クノッフだ。)

今回の講座はドイツ語をあらゆる角度から、それもドイツ語や言語学を専門とされている先生方から学べる本当に良い機会でした。ドイツ語学習にあらゆる角度から接し深みを持つことができ更に学びたいという良い刺激になりました。今後もこのような講座が開設されることを希望する次第です。ありがとうございました。

会員の広場

ウイルス感染防止のために協会本来の行事・催しが出来ないのも、会員相互の交流の機会を持つことが出来ずにいます。このコーナーは、会報を通して交流していただくための「広場」です。

ご投稿をお待ちしています。今回はご寄稿がありませんでしたので、休載します。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第二月曜まで事務局へ)

事務室からのお知らせ

協会事務室お盆休み閉室のお知らせ

神戸日独協会はお盆休みのため、8月9日(月)～8月13日(金)の間事務室を閉室いたします。なお、この間ドイツ語講座とドイツ文化教室もお休みになります。

Das Büro der JDG Kobe ist von 9. bis zum 13. August 2021 wegen der Sommerferien geschlossen.

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は8月19日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい

(TEL/FAX 078-230-8150)。

- 印刷: 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度
発送: 神戸日独協会にて、12:30～